

1. wDN in Okayama の開催概要

中国・四国地区では、平成 27 年（広島）、平成 28 年（山口）に続き 3 回目の開催となりました。西日本豪雨災害で中国・四国には大きな被害が出ていたこともあり、開催が危惧されましたが、関係者の方々の力強いご支援をいただき 9 月 26 日に無事開催することができました。今までは、wDN を夕方～夜にかけて開催しておりましたが、今回は遠方の方の帰りの時間を考え、午後の時間帯に行いました。

2. 開催内容と講演・討論会の紹介

- 1) 日時：平成 30 年 9 月 26 日（水）14:00～17:00
- 2) 会場：岡山市 ピュアリティまきび（JR 岡山駅近く）

3) プログラム：

総合司会 阪上彰子さん（フリーアナウンサー）

■開会あいさつ 小谷裕司 建設コンサルタンツ協会中国支部副支部長

●「ダムの新たな役割と課題」 阪田憲次 岡山県コンクリート技術センター代表理事

●「歴史的視点でダムの用強美を語る」 川崎秀明 ダム技術センター首席研究員

●「ダムカレの聖地・新見」 仲田芳人 にいみライスカレー協会事務局次長

○討論会「女性の視点でダム（土木）を語る」

中野朱美 日本ダム協会参事、
小林さおり 岡山県土木部主幹

■閉会あいさつ 西本靖 岡山県土木部技術総括監

4) 参加者について

会場の規模や 1 か月前の開催案内という遅れを考慮し 100 名の参加を目標としていましたが、HP 掲載後 3 週間ではほぼ目標に達し、最後は参加の制限をかけたつても 125 名と予想以上の盛況となりました。

（内訳：全 125 名（講師等 8 名、事務局 4 名含む、女性は 19 名）、自治体 27 名、大学関係者 31 名、コンサルタント 46 名、施工業者 10 名、一般（ダム愛好家含む）11 名）



写真-1 講演会場の様子

5) 講演内容



写真-2 総合司会の阪上氏

■開会あいさつ（要旨）

ダムの技術は本体だけに留まらず、道路、河川、環境など、土木技術の集大成であります。また、その効果は、減災のみならずエネルギー資源や観光資源にも寄与する重要な社会インフラです。

本日の講演が実りあるものであることを祈念します。



写真-3 小谷氏による開会あいさつ

【ダムの新たな役割と課題】

阪田氏は、岡山大学退職後、ダム工学会会長、土木学会会長などを歴任されたダム分野の第一人者です。今回は、ダムの今後の役割や現状での課題についてお話いただきました。

(講演内容要旨)

近年、地球温暖化に起因するとみられる異常気象による洪水、豪雨により、多くの被害が生じております。それらに対する備え、および再生可能エネルギーとしての発電のためのダムの必要性は喫緊の課題です。その一方、国家財政の逼迫、優良なダムサイトの適地が減少したこと、自然環境保全の

意識の高まり等の理由により、新規のダムの建設は困難になりつつありますが、既開発のダムの有効活用や長期効用を図るダムの再開発（再生、高機能化）が必要です。



写真-4 阪田氏による講演

【歴史的視点でダムの用強美を語る】

川崎氏は、建設入省以降、国土技術政策総合研究所や山口大学等でダム政策の要職を歴任され、現在もダム技術センターでご活躍されています。他地区のwDNでも数多く講演されていますが、今回は歴史的な視点で石積み堰堤の用強美についてお話いただきました。

（講演内容要旨）

“石積み堰堤”は明治から昭和の初期、日本の近代化の過程で建設されたものであり、国内で約60基現存しています。神戸市の布引ダムのような海外貿易港でのコレラ対策、呉市の本庄ダムのような海軍用水として建設されました。石積みの内部は粗石コンクリートで充填され、高価なセメントを節約する建設当時の事情から必然的にとられた工法です。水が越えていくときの美しさ、水の勢いを小さくする実利、百年自然災害に耐えたという強さといった用強美を備えた構造物の一つであり、近代土木遺産として、現在、数多くのダムが重要文化財、登録有形文化財等に指定されています。



写真-5 川崎氏による講演

【ダムカレーの聖地・新見】

「にのみライスカレー協会」は新見市の優れた地域資源を活用して、地域の活性化を図る目的で平成29年7月に市民有志によって結成された協会です。仲田氏は地元新見市のご出身で、この事務局次長をされているほか、この他に、総務省地域創造アドバイザー、岡山県地域づくりマイスター、備北新聞社代表、など幅広くご活躍されています。今回はまちづくりの一環として取り組まれたダムカレーについてお話いただきました。

（講演内容要旨）

ダムは観光資源として来訪者を集めており、新見市は6基の主要なダムを抱えているほか、千屋牛、キャビア・チョウザメ、イノシシ、ピオーネ等「A級食材」が豊富な地域です。この特性を活かしまちづくりの一環としてダムカレーに注目しました。平成29年度に新見市が公募した地域活性化を目指す提案型の「公募型まちづくり事業」に採択され、現在では13のダムカレー提供店があり、にのみライスカレー協会、新見市との三者協働により発展を遂げ大きな反響もあります。ダムカレーのほか、スタンプラリー、ダムの風景フォトコンテスト、ダム&ダムカレーを味わうツアーを予定しており、益々充実させることを考えています。



写真-6 仲田氏による講演

【討論会 女性視点でダム（土木）を語る】

日本ダム協会参事の中野氏と、岡山県土木部主幹の小林氏が登壇。中野氏はダム関係者のインタビュー、wDNでの講演、司会、土木学会、ダム工学会の委員としてダムに大きく関わられています。また、小林氏は数少ない女性の土木技術者として、岡山県に入庁し高梁局竹谷ダム建設課をはじめに、河川課、港湾課等土木分野で活躍されています。

今回は、このお二人にそれぞれの仕事について

紹介し合うとともに、「ドボジョ」と呼ばれる土木系女子の活躍の広がりについて語っていただきました。

(発言要旨)

●中野氏

平成 19 年にスタートしたダムインタビューは、最初はダムマニアさんがきっかけで、国交省、大学、企業等のダム関係者、専門家へと広がって総勢 83 名となり、月刊「ダム日本」やWEB版「ダム便覧」に掲載しています。また、土木 a la mode で紹介した少女漫画のヒロインから誕生した土木系女子「ドボジョ」は、着実に増えつつあり、土木系の学生の中で 16%を占めています。ドボジョは意外に古く昭和 57 年に土木学会誌で「女性土木技術者おおいに語る」という特集が生まれ、その翌年には「土木技術者女性の会」という組織が立ち上げられています。

●小林氏

岡山県のダムは 165 基と全国 2 位の数で、そのうち岡山県土木部が管理するダムは 12 基あります。また、平成 19 年に始まったダムカードは当初 111 ダムでしたが現在では 649 ダムまで拡大し、平成 25 年に開始した岡山県では 14 ダムで現時点 68 千枚配布しています。岡山県土木部河川課フェイスブックではダムや河川に関わる情報を発信しているほか、土木部所管のダムを紹介するダムカレンダーの提供もしています。

観測史上最大の降雨を記録（新見市:393mm/48h、倉敷市:260mm/48h）した 7 月の豪雨では岡山県に大きな災害をもたらしましたが、岡山県のダムでは適切な洪水調節を行い洪水被害の軽減に寄与しました。

●お二人

土木やダムの仕事は性別に関係なく大切なものです。こうした分野への女性技術者の参画は多様性推進の第一歩で、そうした場を広げることに大きな意義があります。今回、ダムや土木について広く一般に紹介できたことに感謝します。



写真-7 お二人による討論会



写真-8 中野氏



写真-9 小林氏

■閉会あいさつ（要旨）

ダムの役割、新たな魅力について様々な情報が共有できたことは有意義で、講演された方々に感謝申し上げます。西日本豪雨災害では県内 10 河川 18 カ所で決壊するなど大きな被害が発生し、ダムの役割についてもご意見をいただいています。今後もダムの役割を正しく理解していただけるよう効果のわかりやすい説明をしていきます。本日のシンポジウムを通じたダムの魅力の発見・発信は、ダム水源地域の活性化や防災意識向上に寄与するものと考えます。



写真-10 西本氏による閉会あいさつ

2. その他

講演会場とは別の部屋で、**ダムカードパネル**、**ダムカレーカードパネル**を展示するとともに、「**新たな計測技術**」として**AUV**(自律型無人潜水機、Autonomous Underwater Vehicle) を展示、説明しました。水中の各種計測は、従来船舶上からや潜水士により実施していましたが、新技術の1つとして水中ロボットによる無人計測が可能となりました。ダムにおいても貯水池の水質や水中内の画像、地形といったデータが高精度かつ3次元で取得が可能です。



写真-11 にいみダムカレーパネル

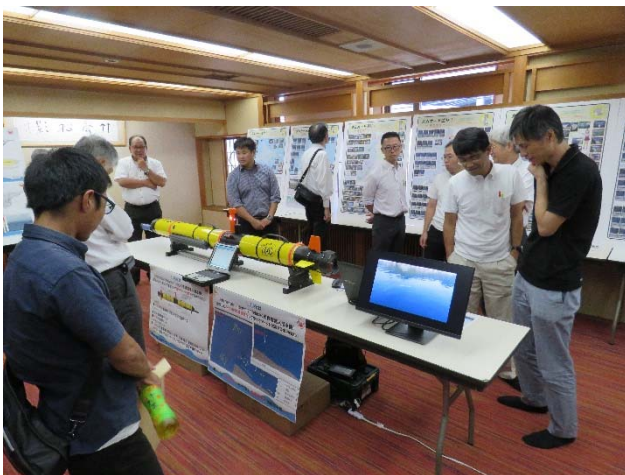


写真-12 AUVの展示

3. おわりに

未曾有の災害があった年の開催となり、初めての幹事役という不手際さも相まって、「本当にできるのか」という不安な思いで開催日を迎えました。

しかし、ふたを開けてみれば、想像を超える盛況ぶ

りで講演者の方々の影響力や本イベントのもつ魅力には驚かされました。講演、討論会も幅広い方々を対象にされており、聞きやすくダムに関係の薄い私にも馴染みやすい内容でした。

また、イベント準備期間中に新見市でダムカレーを食しましたが、また近くに寄った際には、提供店に顔を出してみようと思っています。

講演者の皆様をはじめ、後援をいただいた日本ダム協会、岡山県、建設コンサルタンツ協会中国支部の関係者の皆様方に対し、心から御礼申し上げます。

以上